

西村山地区の県立高校の再編整備計画に係る地域説明会
<大江町会場> 記録概要

1 日 時 平成 23 年 1 月 27 日 (木) 19 : 00 ~ 20 : 35

2 場 所 大江町東地区公民館「町民ふれあい会館」

3 出席者

地域の方々 39 名

県教委 教育次長、高校改革推進室長、高校教育課課長補佐、高校改革主査

4 内 容 室長から再編整備計画の骨子の説明後、質疑応答

5 質疑応答概要

(質問・意見)

- 左沢高校朝日分校が統合になった時、地域で大変寂しい思いをしたのと同様に、今回、寒河江高校農業校舎が募集停止になるという計画が公表され、地元の方々、同窓会の方々が寂しさを感じているという話を聞いている。
- ただ、少子化の現状と今後の見通しを考えると、今回の計画は理解せざるをえないと考えている。
- 説明を聞いて、単に農業校舎の教育が左沢高校総合学科に移るというのではなく、子ども達が将来に希望を持って学ぶことができる教育がなされるのではないかという感想を持った。
- 左沢高校総合学科で農業教育を展開するとなれば、専門の教員の配置や施設整備が必要になる。実習の時に農業校舎の農場に移動して学ぶのは大変なので、大江町内に実習地を整備して欲しい。
- キャンパス制では、先生が相手校に出向いて授業することになり、よりよい教育がなされるようであるが、教員数の確保を十分に行いながらキャンパス制を行って欲しい。
- 部活動の交流について、二つの高校が合同で大会に出場することは可能なのか。
- 寒河江工業高校は老朽化しているが、校舎の耐震工事や改築等の今後の見通しはどうか。

(県教委)

- 左沢高校総合学科の農業系列では、当地区の農業の特色である果樹園芸に関する学習ができるカリキュラムを編成したいと考えている。
- 実習地は、農業校舎の実習地を引き続き活用していきたいと考えている。なお、食品加工やバイオテクノロジーに関する施設などは、左沢高校の教室の改築等で整備することを検討しなければならないと考えている。
- 左沢高校から農業校舎の実習地までは約 6 km の距離であるが、バスで移動して実習を行いたいと考えている。
- キャンパス制は、各高校の教育環境上の課題を少しでも改善することに活用したいと考えている。
- 部活動の交流で合同での大会出場は、運動部は県大会までは出場することが可能である。
- 寒河江工業高校の校舎は古いもので昭和 38 年に軽量鉄骨 2 階建てで建設され、耐震診断を受けて応急補強で対応している。校舎の老朽化は課題として認識しているが、校舎の改築等については現時点では白紙である。

(質問・意見)

- 寒河江工業高校は1学級減になるようだが、どの学科がなくなるのか。

(県教委)

- 寒河江工業高校は学級減により学科改編が必要であるが、どのような学科を設置するかについては、県産業教育審議会答申や地域産業の特色と動向、学校の意向を十分に踏まえながら今後検討していく。

(質問・意見)

- 今回の再編整備計画で、生徒の多様なニーズに対応した教育が展開されることは、農業教育の規模が多少小さくなるかもしれないが、子ども達にとって高校選択の幅が広がり、大変喜ばしいことだ。子ども達が、魅力ある高校の選択ができるようになり、この再編整備計画は大賛成である。今後のカリキュラムづくりを期待している。
- ただ、学級減については、平成36年の当地区の中学校卒業生数は約640名、16学級分であり、当地区の中学生全員の受け入れを考えると、現在の地区全体の学級数、16学級のままでよいのではないか。
- 西村山地区の各高校で魅力ある学校づくりが行われ、他地区から当地区の高校に進学して来る生徒の増加を考えると、学級減をする必要がないのではないか。
- 山形市内では、中学校卒業生数の約半分しか公立高校に進学できないと聞いているので、山形市からの進学者も十分取り込むことが可能なのではないか。

(県教委)

- 当地区の生徒の約半分が東南村山地区の高校に通学している実態があり、その改善の視点で、魅力ある学校づくりを再編整備計画の検討の柱とした。
具体的には、進学指導を充実させた普通科高校、専門教育を充実させた専門高校、総合学科の新設による生徒の多様な進路規模への対応などの具現化を図っている。
- 今後、四つの高校で特色ある学校づくりを進めていくので、当地区の生徒達が当地区の高校で学び、地域の将来を担う人材として育てて欲しいと考えている。

(質問・意見)

- 教員の加配があるという説明であるが、どの程度教員は増えるのか。
- 実習地への移動の際はバスの運転は誰がするのか。
- 総合学科での農業に関する専門教育を通して、農業の担い手の育成はできるのか。

(県教委)

- 総合学科加配や単位制加配については、1週間当たりの開設授業時数等による条件もあるが、期待される最大数で申し上げると、左沢高校で計画されている3学級規模の総合学科では最大5名程度、寒河江高校で計画されている5学級規模の普通科単位制の導入では、最大7名程度と考えている。
- 実習におけるバスの使用については、「山形県立学校自動車管理規定」に基づいて運転管理等が行われることとなる。
- 他の農業高校でも、学校から離れた場所の農場で実習を行う場合は、バスで移動して実習している状況にある。
- 総合学科は、平成6年に制度化され、本県でも5校に設置されている。専門学科における専門教育と総合学科における専門教育には濃淡があることは否定できず、果樹園芸科という専門学科で行われてきた学習と全く同じ学習ができるというわけではない。
- 総合学科における農業教育では、果樹園芸を学習できる農業に関する系列を設置する

とともに、地域の篤農家や農業総合研究センター、県立農業大学校との連携することで、農業の専門性と農業に対する思いを育てていきたいと考えている。

- 東北地方には総合学科が 35 校設置されているが、その内 17 校に農業に関する系列が設置されているようだ。農業校舎に現在行われている農業科目の単位数の確保は可能であると考えている。
- これまでは 1 年次から農業に関する科目を学習してきたが、総合学科では 2 年次から学ぶこととなる。2 年次から農業系列を選択して学習するメリットは、高校入学後に職業に関する学習等を通し、自分の将来の進路をじっくり考えて、農業を学ぶ目的や目標を持って学習を開始できることがある。

(質問・意見)

- 左沢高校総合学科では、生徒募集の際に系列を分けて募集するのか。

(県教委)

- 生徒募集の際は、総合学科として募集し、1 年次に 2 年次からの系列を選択することとなる。

(質問・意見)

- 入学してから生徒に農業に興味・関心を持たせるという説明であるが、入学する生徒のほとんどが農業に興味がなく、普通教科を学びたいと考え入学した場合はどうなるのか。子ども達に農業を勧めるということか。
- 系列はどのような系列を想定しているのか。

(県教委)

- 総合学科の特色である「産業社会と人間」という科目で、生徒に将来のあり方を考えさせる教育を通し、高校卒業後の進路選択と関連づけながら 2 年次からの系列を選択させることが基本となる。
- 中学校と高校をどのようにつなぐかということが大切になっており、中学校と高校の両方で将来の職業を念頭においたキャリア教育が重要になっている。
- 系列の設置については今後の検討事項であるが、例えば、農業系列の他に、主に進学希望の実現につながる科目を学ぶ系列、家庭・福祉に関する科目を学ぶ系列、地域の文化や環境、観光に関する科目を学ぶ系列なども考えられる。

(質問・意見)

- 高校入学前は、生徒はどのような系列を希望しているかは計り知れないと思うが、例えば、果樹園芸系列を選択する生徒が少数であっても、果樹園芸系列は維持されるのか。
- 事例としてあげた系列での学習で就職や進学につなげることはできるのか。

(県教委)

- 高校の入学に先立って希望する系列を予備的に調査することは可能である。
- 各系列での学習は、生徒自身が選択した科目での学習を通し、主体的な学びを実感しながら学びを進めるものと考えられる。そうした学びが就職や進学において自分を表現する力になると考えている。
- 全国的に見ても系列の学習で、資格取得や専門の知識・技術の習得に力を入れている傾向があるので、そのことも踏まえながら系列における学習を考えていきたい。事例として示したのは、あくまでも考えられる事例として理解して欲しい。以上